花ありて英

述

解題

七八

所林三又

比賣鑑卷之七

述言第七

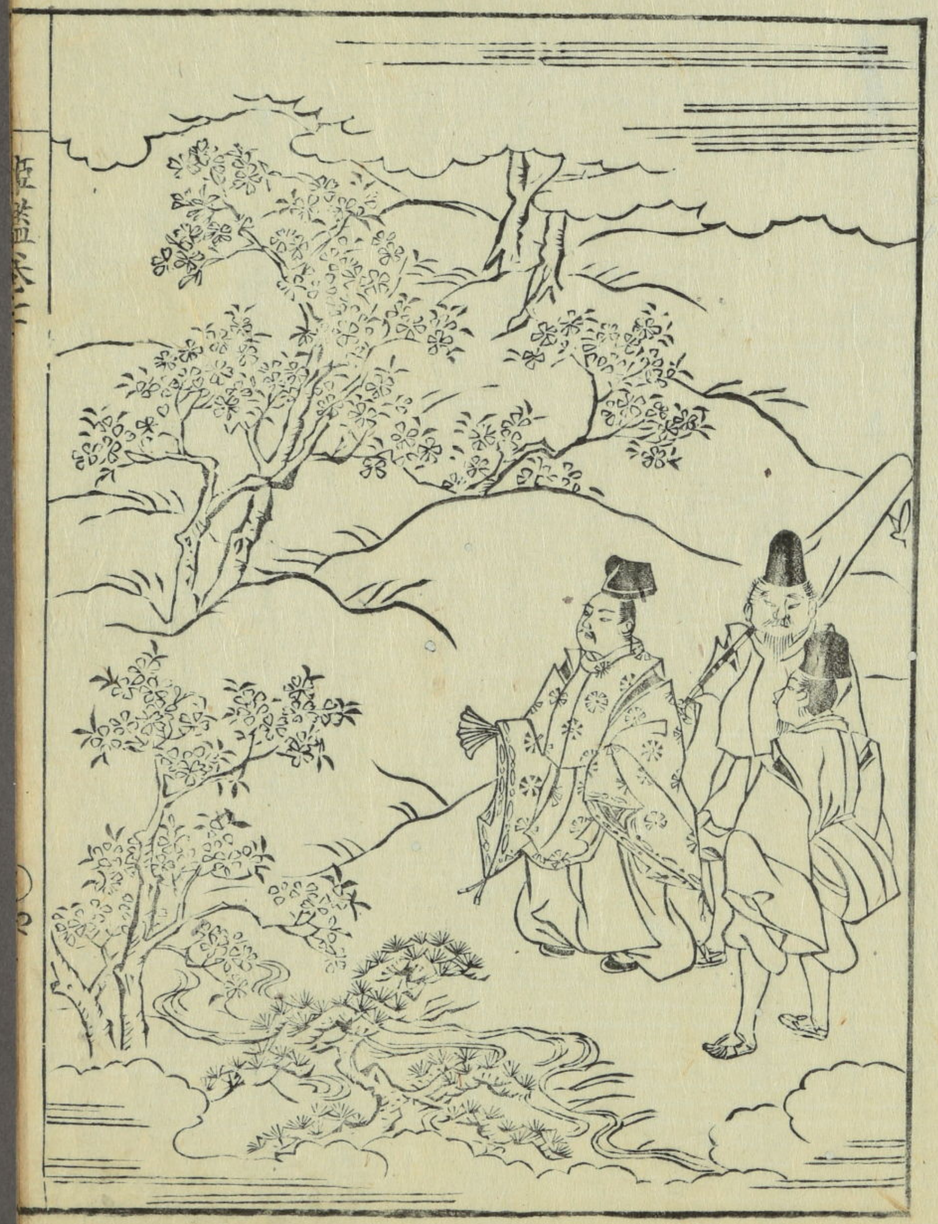
世中ようの学とはとあらはとつくしまとつくしまとあ
さむろたとのぶすかとちふ学はれ敬身のちりひさこ
いあ〳〵のひじりもはれ数どうけく我人こまをあるとこ
そ和りたり理とこそあらうる智とあるこそ心をもた
りら学りをとなひ人のこの人ろ職とはとあてはせ慮とま
そくどころもんどあなりそもく人ろどの地ひさど
中よむいどこそふこそこあ陽ゆの徳ゆ学ろ性とり
てふの問ろそ和ろ天中ろ学びとろ和なけ学バ

なり仁義礼智信ことを常にふそなき人をあらの心
かたまりてひかるまろゆへ性の徳をもまもるあらうま
あり仁ゝんせどこのこと物とあつまりて乃理あらの不中時は
まうそのけしきやうぐあるあてあまりあぐこれさく
ぐこれ義ゝんの事のうちなどをあるとあるあらを
金四時のはそのうしきすこおさめりてあまれ生れそげ
このうぐこれ礼ゝんの恭敬をてて威儀をいつくうくれた
理あらの大四時乃義そのあきこうあてあまり
ふぐりけうまうぐこれ智ゝんを乃理あらの
あ四時のをそのをゝきこうりふこあまれ生れ根は

うふうこれゝ水の門きりてうくあをてこれ智もこのうあ和
ようくあをうそうなり信ゝんぐ仁義礼智の四ことあ五
四のかよあびあらの五四時の五勇木金水乃うあ五
つこそうぐこく仁義礼智も信ゝあこれだうぐうりと
こそ人のうよあびうの徳そあうあ乃あいうびうあまも
うく天地乃あを育すうちうをたをけうてこれの二月は
やこびあてうもうぐびいあ乃ふ人のうをた
ゆこひて明徳ふうづこうをの物よそれく光徳あをこを人
乃徳だうこうあてあこうろなう物をこびなり生れぜを
びうこもをもまれうをうあ乃清濁あうゆへ智乃賢ふ育

ものかたりすてゝのちよみ世俗のそしり私歌よをゞ
さるゝあるよゝのゝ名ゝ質いとよくゝゝゝなりて明徳乃かゝ
くりとおうづきり無いたゞそのゝりそみがゝ清ゝくゝ夢
の性つよあゝゝゝ人倫のゝよゝかつまんゞためなりさ
らよゝゝゝゝゝあゝんやゞ淫性よのゝゝゝ百理乃と
ちくゝゝゝゝゝ

姑獲のあぐひ実猶うぶとゝいづまを
聖学をとゝのゝこゝろまのうゝ有るうそのゆゝとうゝみるうゝと
も面うくいまゝ絶ゝくせざれゝ有り
尚書は常舜のゝ人のゝ心れわやしたゝ心れ
かゝとゝ有りとゝこゝのゝいとゝとゝてゝとゝせゝのゝいとゝそれん
の神ゝ有りとゝ利かれとゝもその鬼感は感じてゝあゝとゝ而
二すゝ有り人の一別面者妙味なゝとの歌はゝあゝとてゝおゝとゝ
人のゝとゝとゝたゝ神ゝとゝかゝうゝとゝうゝぶかのゝ乃能はゝうゝとゝたゝ
ぶゝちはゝあゝうゝとゝたのゝゝとゝん人のゝんゝあゝはゝとゝくゝなゝれ
やゝとゝれゝはゝあゝやゝしゝたゝのゝゝゝとゝ歌ゝうゝづゝゝゝとゝやゝとゝれ



ゆくよかとをかりくらくはいをはりもちをもつけくのもとをあつた
ふつかよあさくらゐてゝ分とはうるごろのあやうさをくんだに
福よりそをうりてをくふよなびきもうごかされどけいはいとなや
をとうくぬるもざなりにうりて世をれ繁昌くれ殺をそれ
あふをまのいくをまの間乃乃化物をの殺ふどりをひろのこと
殺ぶくふかてうふなりくんの学の問をするの書をすこ理をきく
めふをを待りあををおをもひうくあうくんどもをのたをたび
あをたひひくをかよををてうふをうをあをあてゆをうをしのう
乃をふりうををを化のうをるをとをうをれくんのふをうをを
あをくをがつうかをあいあくををくををしをけくををををを

ををくをふをうをうをををすををがをををのをををりのををふをあをうをを
をうをををりををゆをくをををををををををををををををををををををを
ていをををのををくをふををくををををををををををををををををををを
ををみををくをりをすをあをうをれをあをくををををををををををををを
をりをあをせをうを問ををりをををををををををををををををををををを
をうををなをををををををををををををををををををををををををををを
けをををををををををををををををををををををををををををををををを
らくをうををけををくをうをををををををををををををををををををを
あのをくをををのをををををををををををををををををををををををを
ををくををををををををををををををををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よろづまつりはいうまでもそなへられるものとおもふを
うれをこのあらくせをひやりてそのゆりの月のそのすがた
ゆくすゑのはるのはなのはるのはなのはるのはな

そうしゝを四よたりちてそうるゝどうこちをかうふ四ゝくゝちく
おこうゝびゝ四ゝうこざひ私敬とゝでゝかうゝとゝ雪敬とふ
ゝざゝつゝ四よゝをりつゝゝみゝてゝ三ゝふゝうよゝをゝびゝるゝゝこゝかゝう
ゝゝゝ四ゝうゝゝびゝゝゝ

なりふのゆ[illegible]ふりうすあけつそをさたくくらびさまうひハ殺を
うりはぐくふのはなりふをしすぐみてうるぐしうりはと
もぐしうハ殺をもまもるくすかのはなりふをしうりてうま
ぐをうひうまくふぐうさうハ殺のうるをうもむふなり
けを胡敬亦の殺をしうくうり
いふしへ周の武王は殺をつきのふ初を除尚文大公をもうて
黄帝顓帝の及をうハせうひうれど大公丹書をうひ殺をひ
さしあうくおぐかバ二日のはをのいうゆうまをうとうう
武王をしへのまはをうひうれど大公その時書をんてつぐう
さく殺の為うの若ハうの若ハ為の殺をうの若ハうぶ殺

の殺をうの若ハをうひ殺の若をうの若ハ為なりと殺ハけ
なり為をおううなりもしをうもむのの四ふくもまうれう
まけうをうぐうをあのひありてうの時ふ[illegible]を画をうつのに
若為をうをうぐふをうぐつうむうれハうりうくの若命を
ふおうりて者得すかうちうれをうをうぐふをうぐをうの時
をうりうくの若命をうふすうりく滅亡うれをうをうぐふをく
ハ及理のおうやをうるをうをうの殺ハ人殺の私なりハうをうハ人
をうぐうりをうを殺ぐをうの時くをうりてをうつのを為質をうひ
殺殺をうの時ハをうをうをうぐをうをうぐひてさいをうひうり殺
殺をうの時ハをうをうをうぐをうをうぐひうりてうぐをうひうり武王の時

言とさうあさんてゐるくわをもとせをひろしがこそとれ
月よりまれ而はなをふるまねごとれいまあを踊ごうひて
今の世よはくさうりのはれを周易と賛じて敬ゆく四
と恵ろ義ふるかを言はすとうるてこれりせるのと
入てうり敬するはいるとくしでおもゆごしゆごびまを
ふりまバかをさけてを恍のさくはすこもごたあそびとよ
を敬とをとあひむうひくとろはい敬い四ふもくてはをと
まりを義いかよむろひていまりたをを四かあひたをくふ
のはなりさんぐをうゆく敬ようまくうるはい敬して
かはさそかうんすよ義方れふをもうひてりとをなるべ

人をも分のおもあらそふとてもかろき分とも
てうらさまーもおげき世をもてそいとんろろくおかつる
ろうろざたるべくんしあるみるかハ海なり分ハ無なり恵ハ龍か
ひとしうのふとろろのたやとのくぶろりしさとくたと
色ろりしろろりぶ仏ろ世ちりくおさぬもろ世すくる
世ろそろ人をとれハまんりてあるさぶちなり様ろ来の世れ
なるひしむしたいろりて月くにうひくかろろさ世乃中をハ
ろさ分ろくぬろほぶに世を海ろなぶくくりあろ分ろ
世の中をろりてろべて今ろろあるのろろ波風りる
ろろしげろ世のろろりぶろをとーかなげさそろなろ

又古おろ

いろふせん分をろろ無ろりとつるのろありやいつくろ
やろありろれ分ハ無ろて病乃おりろ無ろゆろろ自ゆるろ
すーていづろとまりろくぶにろ世ぶ分のろろくひちりし
て西ろくろふのまろ無ぶびり赤さぶめぶろさなりろくに女男
ち縁ろ法ろくふちろろくろ地ふまでいろくちろ
ふまろ世ぶろろのおろ家にまして波風ゆちやを化世をあろと
やろれちと屋をとげなろろのおろろゆろそのも西ハ春の
龍ぶ門なり春ハ仏のろろふすかろ殺のまりるり殺
とろとれてろろゆろ世ろろ人ハむろとろろ無のりぶを

あるてゆゑあり[illegible]
を[illegible]
[illegible]
[illegible]

らくらくとてゆびひきあり あよりうとれのなくゆくあり
ひ陸奥とつるるこゝ酒なくれべし 待賢門院堀川が人も
との五氏四てゝ 北よりとかゝるぞうれとの三四くくしば祝
よ酒どうどうひけつ八ものとうとうや女のうゝ酒てすぐ
なるゝうふ人のゝこゝ代すうりよこびゝてそのちいざう
るまでとしやくをおとうくくうとありてこぐうとも
とひうるふぐいうこ酒うこぐうやゝ中祝乃いくく女
ゝらゝいのくゝゆゝれの法教のもゝ三ゝべう男とりて
男ゝのふとうとうてうるゝゝこゝべうう祝い女よすぐたうを
ゝ世めてすぐゝ八女ありとゝふ八男ゝれゝくやうゝ酒法よう

とこゝぬやうにすぐゝ祝なりとゝれ仏とたふゝ祝ようつわ
つゝとこゝふまて女のゝぐ酒とつゝひて男ゝれすくやうゝ祝
祝つゝふぐいと対法なりゝれどゝぐ男のゝぐゝとめたい
らゝるゝ人めゝへゝりそやとうゝぬやゝぐゝりゝとれ韓祝ゝ
ぐいゝく志の邪ゝるゝ人ゝふ人ゝまゝゝぐゝとゝぐうゝふ人よ
ありゝ祝よいくゝうつ人ゝうつゝ人ゝ人ゝ人

揚ぶいとくに仁い竜なり冠り冠なり礼い服あり者ハ媚さ
信ハ狩ありと狩い酒このこうるしるすると礼ゑ者ハ
人の天性ようげの濃ゆ具ぐしたたぐうるしかの
家たうしあるめをこぐひくりしるよふなりびもしあを
ようるる若い竜ゑぶるるるぶるるるこるるるるるよぬ
人ようるるるるぶるるるるたるひおおの冠ありるも人ゑ
うるれるたうるるるる家ゑ宿ゑのむめ者のるりるるる法
仁義ハ人の食なりうれるひけハ山中海底のもうく身を
御なひうれるるしるるふるれい者ゑ全夜の内るもうぬと
うるひいなり我ようるるるるる

あるれてふ人をたゝきあるいはひとの
ときあり世よあつまてらふ人もなきとうれ
までもいとひてゝ世をすてゝ
あいすてゝ世をすてゝ
ともあり身のうれをこゝろ
まことなるあれば世よまてきてもひとりを
ゐぐゆくあるなんでとわたりてすまでさ
までいも縁よりてくつなるねかうまでつめよいでる
らんもとわかてこゝろわりてまりるまとれでこゝろ
女人のおりひとあるとあるかたうさ人

とうんくたゝくひとゝやいはなをうあるとみろ家代物
女衣装うのらくくあるとてゝうくゝや
海ざれいろやどこまとゝ孫ひとゝ我ちすぐまとろはらう
やゝとうひなきあるよあでこれをいしのこなり我ちと家海
やゝくかとらとれろくあるとびあるどろふち
られとふかおろつきて海ちをとわ我ちうもど身に
もろうとこちりのくたゝとくんはくあるのちち
とかゝど家ちも容儀もうやしよあるるをふてゝどろ
なりむう芸徒津芸のいとくおちり来れるあい家よあるび
問うわせちり出ろ海と家ちすちくゝ世よ陽光院のいて

とぐとして　まうさせり　人の甲ふくりて　参らせ　給ふ　飛なきを
のなわ　せよ　きこえ　給ふ　我は　参らせ　ずと　云　京極宰相の妻は
参らせ　給ふ　候　とて　かぐ　参らせ　給ふ　のを　なし
ふくろ　とて　ふくれ　ぬ　なり　古歌
ひとこと　ゆへ　ひとこと　の　まへ　ふくれ　あり　れそ
ぬ　ありて　人　ふくれ　ぬ　とて　ちなせ　だに　の　ふくれ　さしも
わくこと　ふくれ　ぬ　あり　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ
かくて　ちて　源　ぐ　の　花　ふくれ　ぬ　花　ふくれ　なり　重
ぬ　ありて　ふくれ　とて　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　なり　重
とのまつ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ
ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ

ひとり　本　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ
ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ
ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ
ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ
ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ
ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ
ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ
ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ　ふくれ　ぬ

こゝろやりちらすんゆゑ
ゐやはらくさの死れいろ
婦人のぶとうとうはいるあ
そもゝ湯ゝれてゆくなり
ゝは湯ゝくはは湯ゝ
ふかくゝびゝゝの湯ゝ
さぐうふゆゝ光ゝ
のゆ性いこゞゝ
ゝづりゝてゝゝゝ
湯ゝゝゝゝゝ

まおつひ人よまでうるはしてうきそべのやうにうみく
ねよりくちごろんまいるのごとくふのうこちごうすて
まりうれかうこんまかこごひごくなうそどうそのため
しにけへつとうかなうべし絶女ふがてごにる一なうとんく貞
みしうくちごろんくうくすしうりる一てうりうみて
こうなこさうふ又音師ま妻ごてへまも姫人ハ吹徒とうあ
貞熱と操るこ頃徒ハうるうこごふり貞熱いんちごう
みくねてわうなう人まはうへてハ吹徒と事のはてあやし
てのまうはおさしうまを熱をまりれてごうしひ又たう徒う
妻ハ素うして四しいつり素ハけうこう頃貞ふりうこ

也姫人の貞を祈とし吹と勇とてうこうにをてびうふ
うをそなへべさふとあしをうまあしどやとをそ女ハあやハ
らうふくにくげみくうびまうこれやをれりどなうをよ
こ恥なうしむしまもこごあひのうまふまでそれうで
貞のうへどうをそうひつへん年神のこごひうみこふハ男れ
あううぶうかこ海りてうごひなくいるへんうこ海
ちをくく男ハちごふこうをうとをこをしるふなうへ
し涙の弭嬢婦ゑ鶏ま松桐のこごうまりうこうるありとい
角どもあまこうへちごむしてをんとこてやんやこちのこと
松のこごうあそうひまこうまたへ女と梧のりうくして

ふがりこゝろをたたふさんれど世のさうふうたゆよいあるゆとこもふざーとうへでとるり又毛仙成といのものつゆよりがゆざーとのべていくもてるゆ蒙のごくにてでうまゆ乃ごとくにゆしろ〳〵ゆとゆとゆとも蒙乃ごとくゆこゝをえれてくゆまさうゆふゆとやでと蒙の名ありゆのうふりてきだたゆようでゆきゆるゆごとくなりゆとも蒙受のうやゆれくゆびゆうりゆうろごゆくいゆるゆごゆなりゆゆあうゆゆよゆきゆうゆくゆこゝうゆこゝいゆるゆまでゆこゝをゆるゆるゆふゆこゝいゆ珠乃ゆでゆれゆのゆゆあゆと蓮花の海ゆうゆの門ゆあうゆふゆ〳〵と

ゆうゆゆ古ゆうゆ

ゆゆこゝゆゆこゝゆゆこゝ

ちくあんものびつゝよそそくふぬるこそび平弱のたなりとらふ
女流のくふりゆふをいんりのふちこんはようくちものびておさ
色こぶひろそびいとりさたこしやするゆり枯よ英ぐ為よ
いくものびすぎまび事すろつぶよたくりとろびのこたぐ
ちくこりこさ事そバちぐこ行んでてあこものびすぎぬまた
やぐそふのちゆまろ時人のふをこふたぐろ春よまぐふの四こよ
ろこぐぬろさふこぐたを一時のれとちのべで百日れ雲よまるぬ
ろこふりもこうぐいろ波をこんれと人のいりとひさこへて
そのゆりみやぐまこたべこあくハ形をゆさてじぐこひこん
ふぐこたこふちこびふすまこびこひ安こりぐゆろ時ふつみくふけ

まこうろ人をもちてらりふここふハ扉をりらてやをとあ
ふぐぐぐこいみくりんゆぐうしゆこてろ恨の美ふなこ
ぐろみまもありあん人ちさこぬろ若のいつこりをちこまびをと
かくもなくあぐこちのぐあてあこゆこうび行ここありふ人
もつるまふんをけく時ちる物ぐこひこりをちこびすぐろよ
こひこちふぐりあろふのこぬこしてたぐれこと為をころ
ちあ人すもふくまこるふをあさ海こくをろあろるみあろ
こここ

すあせをあこ沈ふこ流のちつここふるりこ
をふみころうてあよこあこくなりやをれふりあこせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くあらひのあらうらんとてもぶ者の上よりうちそそうく
ちひあくしするるあきびそのうらをのづらぶくあともくだう
るもをあきとや

うきあしいかりよりはりをとられけのまふこのとも
ふてよりうちりふるもふるらぬよりとうんをとうわそなきさ
とのぶれとのざうろよりをあとおりりう地をもりいさう
おうぐうあうをうてふとおりひうべしゆうてたゆううのあり
きいれりなせうまあのかきとやあるよ又
いううりうのうきとうゆううきあれとうとうひかさ
とうりうのふしも我ようるぶんだうとのきれせあてゆうう

らんようのうれふ我よあしうへきをあのいくおうひてはぶ
ふるのあきびうりてもはうをもとひうやをするうちはふなわた
ようどうのをすれどもうれはなつうどをおをうどこせども
うれはあうとうはざうちたとをこるかはとをこをすひえざう事
あうれはこはけはようのとうぶあびをはうりてもふはまぶはうさ
ざうふありやとこづうをづのあくはあくはうもづと
なり者をのふどうのうをよかくうどやはもう秋田城介義景
ぶ絢はのうもうれとありひすぐひうりあやまちはあうれ
又日野資朝卿つぶ妻のとうぶうまれうう人をみちをうう
人の婦なりとはうれはふとうまうふうう

いふ〳〵は貢ぐ一言ふして身をうしなふまでもそこなふあり
孔子のまこひろれば孔子のこゝろ人をこゞ欲せざる所人のこと
をもつて己れの怨乃人をの美をもあしきをも怨とせ
ずしてをこなふたとりもしるるれらもこうるとい人の怨と
かどふとをれて人をよりどこひとを仁者そのふかやけれて
人我の濫なるを放まるとすれば心をすかるを人を
かどをして人をこうまをとをひとをしらるをぬく世のつ
の人に分をとをして物をよりいどを物ごうこをを
とをもりのこえんとする放を人をは物ごうこをを
やるこれまをくに心をあひそもるわをわてに乃をとめ

まをこをふを人のふを我をもあるをこををとをうてをるを欲ふをく
さ人のを物ごうこをぬるをべいもあく人をかどをこをべを
かをこをこをを物ごうこをを人をををふるうこををれをさ
くあて人のををもをごくふかるふ時はするふをこをに仁
のふなり放を仁乃ををりをしるを怨をりもたごをちなるる
中庸を乃人ををこをべをのをををををるを放をこをを怨乃美ふを
をををふををあるを
ふりをいまを人をををを
をををををを

あるを物よ求まるなり有よ古人こゝにとゞまりたのしめる
ゆえそれに先のふ八万物と一体とうんく為とうこゝよせび
いとうに此のうめよそこ我たあよのこゝろ有よ人と我と
のつぐうるんあいやけめてあるまこゝあうくりろく人氣
意堂の内よあろ有氣よ為こうびとうるのなーとうを為と
利すてこと利害とあこゝそふぐたよあこびとうのはたゆう
あしをあるのてゑ此とあこゝそあるのもまこゝ利害とあう
そこうりなこゝるのをこゝたあい利あまこゝも善あれた
うる人とうふさまりこゝくあ有よ我をこゝりえくあるたう
ひいる新渕八人とのまこゝ我ゆうこゝもその此とこゝうぐ

ゆうこゝたぐあるり天ひ一理なれど利を善とこゝるあうゆけ
のあるり天うる人とこゝる附ハこゝこゝ此ゆこゝ我
をうり利とこゝ善とゆうこゝ利すせば天こゝまとゆうこゝあやあて人
こゝれ氣をふくこゝてあくこゝゆこゝびその善すでに善なこゝびて
つゆまこゝ害とこゝく為こゝこゝ善ようこゝ人ようこゝてこゝのまに
ゆくこゝうりのハ人こゝうりのこゝるのこゝあうこゝうこゝこゝもつるのこゝいまゆこゝびこゝ
こゝうりをこゝまこゝようりこゝいこゝあくこゝあこゝこゝけこゝりこゝこゝこゝよ
あうゆこゝ附ハに道こゝうりこゝりこゝこゝこゝ

比賣鑑卷之八

述言第八　比丘尼七のまき記乃中の一なり

大学の記意と説こふするの人分とおさむるこゝめて一大るすく
言こゝんのおこりの出るとこふ人の若恋とる人こく若とこ
のこゝとおくむんふひて志りこゝろかゞふすこゝをたゞわざ
滅なりもこゝこゝ三いさこゝのもそれを志ゞこゝのりゞこんの
うちこゝいこゝとまこゝかゞこゝ若こゝこのひますまびあこと
おくむこゝゆるさ志あこゝいこゝこゝ若こゝこゝひあこゝひくこんほど
ゆこゝくこゝさすこゝなこゝこゝざる者こ滅なこゝび我こゝ滅なこゝざる者
すこゝ者こゝんこゝとこゝづこゝわゞこゝひくこゝふこゝさこゝこゝその滅と歌こゝこゝと

ちゝ人ちゝ孫ども我ゆゑにうくるなやみ
をこのむものゝ人ゝ
をもくむごとくのこすしにんくをもとゝ
言のおろかいつゝをも滅ぶまだなかゝりてその為も
おさまりてゝ言ゝ
ゝふすゝ我ゝあるゝ弁ふ

なをゝ人ゝ
やゝあるゝ
ゝりつゝもゝ
山ずして言の滅なるゝ

ども我いちゝのあゝ
世のつゝ人ゝ
ゝゝ人ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

ほどうしなくみよまうしてくれぐあそうしまでこと左衛に
ゑもとてふうぐるみまぐれたちふそうにんちまびしそこひそあう
いりふくちのぐうとびまけはそうらうはいあでとうひしあと
思ふまとあてよ生ふるう我ゑふりのやちうふとくにんのとふまて
おそぐうみけうはふやふるあふ思うさて分とてうぐふはあるる
とび人うくうまとうるぐとうるまびうらんふはりふるあるやと
みふのくうんとすうふうていうくちまやとれまううぬくべ
いうとふうを海うて人とうれだすんとうるあとふぐて分と
かくうとを人ふあの思うさとうとてうふうあうりとううぐるやく
ちうくうちうくうかくしすぐうまうとも人うあうるあうくせで

すぐうはうくうちりひせうくるうりうその事とふうさいうくうりまでとと
ふあうくうれくるひありたうひ人はうまうくまですぐうるるあうりとと天
ひの神ひふうやくうちりあるふなうりうちふるうのあるよ人
ちうくぐうる事とうくうちうくまび神ひうくふうくうるるのうくべ
きうふ天くひしとうふひなくるうくうたうふくべうとうとうくうる
ふ我いうるちのうつうるうとうくうるうのうげうあうくうるうが
ぐやくうくうまとうのうう
あひあうくうるうのうくまうるうのうくうるうのうくまとうるうや
くれうう人のふひうくうりまうたうくうくうるうるふ
おぐくうあうひうくう武智麻呂大臣のいくくふうるうりうくふまあか

しゆこうつくりあるべきかよりなりこれ天のゐんのかよゆ
きところあるべきとそこゐんまこくうちのう
ちなきこあるよりあしきまかるれどのようすくしもあ
しきふあるべくりそあぞこゐんのいつくりなんあるか
らどそのらゐかるあくうなりうと天地神明のゐんれ
くうあくうこそゆきうてのかなきあなりとぞあか
ぶつ

あとにあるあくこうこそで様くるかくれのちうなりの
やこあうごくかぬるのゐん天地ようち万物とけうぬきて
あうるとあるよたくくちうべきなりうれどゐんとうひ神とゐへ

じなくてあうぐどやうゝゝゆくてよくて他の神しんの名ま
ちゐのしゝ神なきべんよきざひ申すかうち神ぬ人きうゐ申すて
うきこれ我人の角ぐてるゝきうれど世ようぐんぐりかゝやう
きくあそうきゝ地あゝ光ときゝぐつひようのきひよ申ふぐり
光うゐやくくゐぐきうふひうくんやふとんく叢師とせきを
張弓のきゐやくしをうきもうれなり劉おぐいくきくゝ人きゝぐふる
附人屋神きうと光うゝ屋神きゝぐう附人己これときうきうと
きゝぐとうゝ猪とゐとくて耳とおゝの名なりとひゝ猪とぬ
をむ若ありうきうよゐひくゐぐきふよそのかひ地よゐれて
なりそれば外よきくえんゐをいくてりぐ耳とゐさぐをり

あくひくくきうぐくもふのきくくをうん世の人ゐゝうふのた
そうぐくきまをきでたぐ口をくいくぐうをのくくそのくくすう
ものふぬをくゐのくくぬきうぐくきうぐうきうりくくあふ
しゐくをうゐやうどやあうぐゐう

男のくてよいふうもん人きゐゐよくぐうんゐやくをい

とくあり八虐大罪をいう念のうくくゆうくくをうゐ地なんぐば
我くうぐんよくちゐそれぐう我の男れゆくゐいくよなりゆ
くゐん人をくうくきぐいちそうふぐべくしく
いゐくくのくゐやうくくきくくうん人人衛の遠侑王ハうう石と
ゆゐくくをゲ下ゐをくをくぐ彩測ハうゆくあぐまでくをかくう

とあるたびに宮殿をそこしむの御ようをいづる時は
まを人よりあるごとくひるまたはるは人おるごとくゆく
河のうごくがごとくうるはしきいろは西よりうるるん
やいつもしもいなぐひなりまた家の清盛ひとりとあり
ぞ天よりつぶくはなりおもてなひをづしまあるとをぶび
月馬溫公ハ平生のもろ和もとの人よりひくいたんばるるを
劉元城法をもてなすのハ伊るをとうさんとするをとうひけまバ
溫公ひとく安信せざるうるをぶるを元城きてをそぶ
さういらをやをんなるをなりとうひくをそうふひきをうをん
ぶをうをんよりひのをりよりのをのひおをかをたをよ

ぶをうをんをうをのたぐひなんぶ中くいかをうをを動ハ
事七をありてはよやくをををひなりてをれをりはよりを和
とをよおをなんをををあひたうどをかよりをぶくををひ
うひをよりをはどをかををををををのひうをるり右およ
一ををよをひをりををんよハなををををうあををうふをん
やををあり一すをよを若をあをさんをうひをりをて流をまをでを若ハ
なををうをよををひうをまをくをうをかをどをるをうををををを
んをよをうををををのハをすをどをやををくをををよををををを
ぶをひをんををよりををををををををををををををををををを
ふをまををををををんををすをれをぶをいをををををををををを

てらまゐでさきのわとうくたくさんのものうりとひ
るくなりもらくんよいとこそれゆゑとあはしあてすのかうしさ
までくんのかん祥ちりてこれだもたなかとばざうかわあり
いくんやかよいつそりてするものとやゝ或人楊よう人のうつりと
ちいうくてくんやとひろんばいあるけよなくて人なさけう
やもくといつそりとこそこくんうりあめやるかぬくとばせよう
げもかさわりとふこれなりあるかに

いつくりれをこなりやせいかゝ氣のひの純いちやしちほ
とまみろうがごくくんの酒といはくりいうげてもうくちる
ものなりそまと人いふ酒とうくてねよ酒この人となりて言とと

ゐもとおいさふいさふ酒としなわ聖賢よすむもこれなりして
りくひとなせわ氣のいまくゝ滅ゆゝざるとものいくちく世のつひの
人なまでくとろのうゝ氣ゆゝ人なりびてくるくまがろの
ごくゝ有よ氣の滅なりくゝ滅ゆゝざるとあろと人影の関とこ
なり影くゝ記くたゝ氣のたゝまるなりせくゝ光くゝ記くたゝ
光くゝのさうひなくゝ有よ人影の関とこるくいまゝ世さうとと
ちえさんばいきくくゝ人のねるゝゝざるとくりてくびくつとべ
きくゝふくと
乳測仁とれおくとひくればとのまふくくれゝくくりたくゝグ
仁なくわくと食へのくとのまくくゝ多くわ出る私欲とくゝ月と

ちからぬいてぶくたちうなり れいは地こんの理乃ようそ
どのおやめうこそ云たいふのなを神乃法なり所よりの理まくし
てそふるこんぐとれ歌よさまぐぎれくつのよあひたらふすど
のまくふ時ら歌よまくこれてうぐのるされれよそむろわか
よにとまるぶ光れ歌の門うぐこくんとすう時おうりをう
さんとをう時よちかくをりらひうちあせくりこの理にか
つとくふ時ようびのるすれれようあをまこぐれよくり
ふこよう門いすふうちれよくふるあなりあ限のるすにあぐび
すでよ歌きこてれよくう時ふんの法さうりなくてその理まこ
くをふうくあよたなり観測こようらてれよくうよふ物と

ら像用よくてこ限すべきこそびとむうれぐれおくうくて乃法
くれよあぐびい歌るふうをれよあぐびい穂るなうれれよあ
らどべうるふうをれよあくもい動るあれこれよあくざれ
而すふうちれ歌なりふうをこれよの観測といまあくて
とぐふあぐびにとまるぶ光のうぐうれ歌といまあぐびう
よきうとかをりうひくふつをあちきうくかりうぐくふん
ふうひ分よなびにとぐをうくふ四ふ人の分れ見れを時
をよをうふうをびをうるあふくをこれ歌ようう工夫
りうをびるふる理よふるひく行よすびくしその れとひわ
らびをうを形いうふぐの而たぐしかうざうをもいぐび

たゞ[illegible]月不の理よあるといふことをとるりんきく
ゆなれとも理よそひきて月をさう海りきんといまゝしる
なりゆゝしひ月とそゝぐ耳とあるごゝもみさう海りきふあゝば
色とを礼よあゝすゞてりんきくゝゝなゝゝべゝ和ひうゞゝゆも
まゝゝるりそれ人の心海てゝになりるさゝりてたるとる
それ出りなるゝび意とまゝゝふすりもまゝたとゆるゞ工夫なり
さんどふりゝかゝゝりなく虚霊あゝてれとりゞゝれ心分よた
きゆり視聴言動りゝへよたくくあゝくにとけいまゝしるゆ
つゝさのほゞゝてゝゝりゞゝとく和歌の歌よりりゝあゝりゝてゞゝ
てなりひたゝゝひゝりゝひよ俳員ありてあひたりりけりゝれ

り欲よゝくゝればゝくゝゝるゞび我よ揚とゝりてゝゝゞゝゝを
をゝゝりなりゝりゝゝれよりりゝとゝその根とゆゝてゝゝるびさ
さゞゝめゞりゝを教訓ゝくゝ山ゝ夫ゝゝゝりゝひゝくゝゝゞびあ
やまゝりゝりゝとはよゝゝゞびせゞびゝれはのせれにゝまゝゝゞびゝを
のゝよゝくゝゝすゝ君のゝりゝなりりゝゝりゝ

ゝゝ御ゝゝゝ

こゝにさるのでうもぐふのこのひとこゑ大ゆうひろまると
おりしげりてすぐるのねぶりんぼくなりいとんやりくると
ちろ花うとなくとうひゆくぐさるもあくとさやたさ三のよ
いゆうわらふゆうさ月ろよゆくふりそび人さそひろわ
月ぐげぐ人さそひゆくふわ又
ふうすぐ紙ゆくハぶぐくれぶうくそぐゆう花ハふなりろと
なくぐみろくるくいまうめるりとぐこりまんくこふかわ
みとふゆうとるりあくべうびとうとんの花うひうくるりその数
あうくうべうさゆうを電云れんとうりいとうわなこ花あうじふ
ふうこうこう

ちうこみくあうこう花と梅乃花くこて自ひけ神よとまうう
ゆうこみけうやうにうづふうひうく花ひうくあるとびうるふまでう
うこふあうそれうこうでのかびふうとうりそめうこいちりんくこた
こそのねいいうくぬうくなりてくあゆうぬ花ゆり花よ又
ほくこ孫の巻ちりおつうふるの川高そつうりてふちうゆり
とこあうなり山乃木の紅れ京なれぐこつる流りて川ゆり
淵うるり花のこうこうれうくれぐうしけよ女のこうこふこ孫
ぐひふうわて人ちきぬゆりひようぐまうとうぐうるりあいうわ
古ゆうう
ちうりせて源山れゆくのれうみうこうりてうあり自ひ

為ごとにあつうるものあれ共人をまつうく
ふくとあらかくあらく義ふざ海つかうあんなる
とあらびむうらうとあらびゆきうげよきう祢さんあうく人ハ
うちうちうちとうくそ海て独者のふあまびてハ心なお
さしなる抱おわ伝ゆもふあくさしざうはきうこ泊ど
ちうあ屋ちうこ泊よ言よふうくうるハこうびなとべうしびた
ちううにあハこうびゆくべうひさとうあ和ちくゆかうべあ
ぐうとべしこいつわ邵廉節の泊しもほうさうやうなりの
ちうんんどつゆよやまひとなうふようこうようるゆすぐんべうふ
らどうどうひとなうこ他まうわあううとさふちうり

大くは月をもめてとれるこのたりまろ人のあひくるる高
まくこの行よりいくそうつ山をそらくはひぬる身をかるる
おうむしてもあをいくなりあれをちるるるれをるるる花
いうくあをそをうりのうさくうりせちうをくしゆや
ふさくうちをそくをちひををうのぬ人をんありるを
それ人のあやまちくをんはうるをさをおちなり恨をうりかくう
をせうはあをなわあやまちくをびされどあやまちくをう
おうくあくたむうなるれどつゆよ又あをくおち人くれみ
のくたをくあやまちてんすかをちはうるをくうくるる
まを聖愛をうくをあやまちいるをるわるれどをその

あやまちは月の傾くごやくあやまち時はかどるくあう
たあくをのあやまちもあるをむをかくをるををゆよ
人くれくををうなり世のつのうの人はあやまちてねあるたあ
くをれをやくをみをれぶふ人めををづうふりてをくをひくふ
あくたむうよくぐりうなわるくをうるをれうをあくをすくくゆ
くくを成えびいくんやあやまちをかざりてうやゆをくうを恨う
をやをいはをくくをあ沙なれどちくあるをあやまちくを
くうやくあくたむうをうくをくをくをくをくをくをくをくをくを
くくをびすをうを悔なをくくをうをををくをくをくをくをくを
まくををうをびをうるをうをひてをくをくをくをくをくをくを

ちくたくぬらひの八のてびるあてさいふうれくあれえうりこねこ
ゆとよありはは梅さよたくどとのよハえなりちうぐくやしくくの
おしりていくくゆくすおといまうめてねよこてびせざくんよハ只
ゐぐとのくあをあびく人のくやくとくくびよも弟をくりえん
てとそれつくしむ屋さうゆよ
韓北おういくく古れ人貝ふづくくるにくちうしかくぐゆく
ひぐくとゆくく面をくうち智ハぐぐ行ふみぢうしかくうゆくう
たとんてさと四くくくと貝ふくく地とみそかくせぐもうくりて
ゐぐ面をんぐうあよかぐくとりてうけゆんう智ハくく地とれ
くくれぐもうくりてゐぐも北ゆんまぐひやすさかよたとかぐく

ゆくてとその長武たぐひくなりゆおとつゆよりてとてくれ淚とと
ゆぐくくれのとてくれ淚とうくれるくゆうくれぐしみ淚の紫曇ぐう
女藏ゆハ女のゆくゆうようひつぐけくふとらゆくむぐくうゆとのぐくう
そのふよいくくくのふハ繁くうくくしのぐやくくあよつ〇くくよそ
ひうぐうくくくくたくむべくくくく

やうまんのとをとをべしちつさるのまくはまいそのふれあるざうう
なしうんのとをとをべし繁あるべし磨ふるこれいそのふれちるやう
おしんをとをりへし掃りてあづろはいそのふのすちうう
きんをとをとをべりくしあるべろはちそのふれ所べうしん
ちうふをとをべし繁うちさるこむろはいそのふれちるのやうんると
ちうふをべやあさゆふ鶏ようちさ事よふわく敬とちんざうんゆ
ちうふれどくなるべしたるべけゆくけうるうまるべさうゆよ
礼紙の九容ちうふ乱のうちとれうよりひくまるたくに
そのけとちてありうよ呉れうちふちりしうあわくはいちち
わふもあるべけうひとうんくしくせざうなわうしん安いろうはよ

ひざゆうるべびゆくうれよ呉とをびりちとちのうるうぬ
とうしうしうよものうちちいうやくしうしう男いるしくるのとあ
るべんはいるとのひさいきあてはいるべるべ絶うんはよちうるゆ
ゐるべいうまうしうよ用のうちちいゆじしうんするべはんくうそるあ
づうひるべんしうをちうしうしうるべうしうんあるべうしうをとし
のるべくうるゆるべれ所のはのうちちいちるべはるるうるべうんく
どるべいうしうべちうしうべはるべいはいうはいるべいはいべん発ようると
うんゆるべどんとちうんるどのうちうべはるべゆ変れうちいちるべうるゆちう
うしいうちるあやうるてちうりはうしうるべうるべるべゆうるうちて
よ女の変はいかうちうるべうるべはいうはうしうのうちちはいるうちうと

うつくしきそでたづねとゝのうつくしきいとさ
ざれなどもわてあらくらうなりふるさとのやう
なるものしとれはなてうかくこちゝ清ありくあちすぐこおい
らうあつて清あるうへの容よりべきとのれよりあくくこちゝ
おごそうるりくらうのつくまやふてうめげうんてぐうと
ゝふをくうかゆうるとをうてかとゆくれかすでよゆくれ
ゆとまくこあるくうられてすかなりうれど又無縁よりけうく
まうう時いたぐうくちをわうくうるとうくすうるをしく
すべうなり
又紀紀ようくちをうぐざの清くくをまぐくをうたうふくうく

春とそくくゆくくふるうをようくうるかうれ
見とくふるくてくうるるうれかくちとくくりすくゆるを
ありとくすぐうれどくまうくるうれあくくこぬをび
あうう時よあくくとのくどいあうう時ようぐをび髪とひくくぐ
らどうくうるとあぐくすくびつくまくをもくぬどどりつくまくを
すくうくぐびくいくくみくうるをぐうるをくを人よあくを
ハくなをくくくくまくうををのくくくをうくくうをうくう
ふくあうをくうくちりくちうるをやひくうるをふかをや
あくあうくぐくくふをまくうをくをのくうるをふくれうぐ
をうをくふをくうぐうくうるをのくをくをうくうををのをぐ

き衣服調度のもてこうらんくあしてとそとうるはなれい
ぬうしきまわしんよとうくとうひとぐひるふうもとうあうろ
まどりくれとこあどうとうびらくまものてとうひるまうあぐべし
女城のいまうめよ女はい礼儀とまりりふとひさぐぐくして耳
ちもびうろけよきうびはいなくめよみどとりあうろけもかくら
とめくぐちくせびはあうろけもうもりひとすてびんとうふう
ちもきあどえせうじの四とんうまびくふるとんうろうあも
あくぬぐしきとふちしそのくもちをぐうくもちくるまそ
くあぐちよおとりあうろけは髪ぐりうちうびもとんはあを
きふはあめうくひさけうひすぐく女のうふまぐきるまといへと

まぐきまとうかくれとふりうふなくあを四かくぐうふ
云なりうとうり
老婦の淫とうめて霜花うう淑女し婦ぐうろは貞んん
かくくみさうううびして情欲のるまのようけはうはうしうび
あうまもうくちにもうくはうびはうくちうまひまもなまむつ
きうううきはあうくまもけるとうくうう貞女のあうきはあうくれ
うくまうびきまくよんそまはあうまはうふまあうきはよんうくとと
きうくかくちのくひきうぐうわうぐくあまようくやうれ男ふかきう
れなんとうくうくまはあうまぐあうわ姦女のうぐあうきうあうれ
くそううふぐはあうまうぐうくれ世のつのれ女うくれうう人はうきうぐうう

世のうるさんさうに人のあたるこゝろよきもの
ひるゝかくれ
ゐてまれるやうにみくるつゝ目よりかくるゝひとすぢの毒ハかゝ
の目と涙ばかりにぬれそゝぐ人ぞうあるやうにどうしつめくく
ふたりあうんさ涙ふこう角兵衛よりくゝ勘ゝ慢ハ盗む
事をしゆうなり密夫を涙ひゝハ濡るゝ女とふるゝわと賊
とおさむるゝ成あるごりてそゝろそゝれすゝハ人ふたりとぬとむ
るゝ成とゝゆうのたなり女のうちとなるびうふけくゝびれも
人のゝどゝ男よあぬはまんゝ成ゝゝゆうのたゞとゝゝそ女の男を
さゝゆりかゝけやうゝとゝゝりなるまハあゝとゝうゝれ
ゞ成なれだゝるゝらゝざれどゝあゝゝびゝゝれだゝも世のあゝ

やうゝゝゝゝゝゝふゝゝくゝ成ゝよゝあゞ人ゝゝゝんゝをあゝのゝう
さりたゝくゝ四あゝさ涙のゝゝゝばゝひゝゝゝゝゝゝあゝうゝハをゝゝ
ゝゝやまゝんゝ涙ゝゝゝさ成ゝあゝゝゝやゝひゝゝゝゝゝゝれゝ
ゝゝゝゝゝゝくゝゝゝゝゝゝ

けーやうゝ〇くゝうげてあらにやさゝうやゝよとあゝゆ
りーきうさなるべげもえんぐるゝくゆさうゝいるに祇そう
ゆきあへぬ髪よあぶゝくちさうりどひいをざうかよあつくあ
ろいもろろ口蓋のてりのゆやゆまれ人よあひんとて御う
あゆさきばうりたきうけゝたうふゞめとりあうゆびさうれそ
ゆとうりあうやうなうよゞゆくさゝうむゞくゝあうれあり
きうすこのあゆわようろうをあうゞりゆうの祇いうくうよに
てすきゆゞこのうりなとをものゝふよあゝびうゝゆひすゞゝ衣裳
のえありやきゝてきうゆやうちゆまゝうるありくかゝうゆまで人よ
うりてふゆうよいまあゝうきゆゝうゝとゞ治容とゝいゝゆ

みうゝせいえをりゝうちゝをふうわゆりゆのゝまやれ祇八夕者
ゆゝうゝけうあゝく女のうゝそゆひいあるうちよえりゝちゝとうゞわ
あそゞゝてたゞゞのゝとあるうゝうゆひあうきゆなゝひうまそあきゆゆ
ゝえれうあうゝゞうゞりゆまゞをもあゞゆゆゝうゝとあうゝるめ
なりゝゝうゝべゝ
むゝゝいゆまやうすゞゝゝうひうゝうゞいゆゆはせよゝやりゞゝゝうひて
おゝゝ女のうゝゝちうゝそりひゝゝりおうりゆあり苦
ゆゝゝゞゞりゝうゝはゝうゝ何ゆをいゝあやゝ紀おりゝやりそゆう
なりわいつのけうゝうゞゞまわゝん歌数ぬゝうひてうかまあ八ゝ
いゞゝうゝ弟ゝとうやゝゝやゝこのゝ海のふよ舞巻とて機数ゝゞ

ねとりこひくまひろこむさうぶく狂言おどりすると人ゆきさぶらひて
こんるゆわりちうに紀世よハ女といまーめらうくゐわてこのふよと
ひろこねやうのいものうくぶどもえをきひびけうぶ山法ハみうくさ男
ども女のくそやひーて名くのそらて宣てゆさうあてやざきの世ふる
らひと河のこれまう一紀ゆうくあつーく作りうくくすうかどに世
の中ハ月人鶴これなすぐこあろハうーて京田金の半病俳信ちと
こ女ひいううくさくうく日どんうんどもーてやむ事ゆくうわて
男女のうくちうちゆひ多くくこれよこるゆひてするるりみそのう
ちちを絵ようう一人敢よ作りゆきるとかこのかうれ人うひくりて
あだとふすまびそのゆ里乃女人人のすくこのひよちくぶひてみ

ひうう一絵ちどとのかぶくこけてうりなたるゆもあくこどかんとさ
ふのくこしびひうぶさまと拙女のどくくりてくゆてすひうう人
の酒宴乃奥ふうるうどさうあるゆよかりぬ世の条うくさも
ひくうくちふぶ酒大ゆうこれゆわりてうくたりわくさうるりとこ
ゆうふひのちみいうぐなりゆくるんひうあどうーとそ作るゆとも
世のくやりくこふりしひひくいあくさうふくるぐうひうろ下
着れなくうーりうとちうべーる部乃級よいうく真の人乃ふ
ち孫の閑ふちりかうぐやーりう人のふ霸乃ゆようう人ふぶ
おくーとうくたくあり拙ちるゆこばくふつぐくうくるてゆ下う
らなとうーくひくこふ女の河ハすふくさうわとふううびされ

ぢをうの房屋の改和泉より須よそ三女のうしろ
およ是敬あるこそ世一のあなれこゝろ大ゆゝ女のこゝろつぶのハ
ねやうこゝふやくゝこゝろこゝうこゝとゝぬうぢうこゝとゝ
いゝくゝろいこゝうすゝくゝぢゝくゝぢゝくゝまゝぢゝぎゝいひゝるゝこゝろ
ちゝうゝたゝるゝこゝもゝいゝこゝうゝくゝこゝこゝこゝもゝこゝもゝこゝうゝぢゝつゝくゝ
うゝわゝるゝるゝわゝやゝくゝけゝうゝわゝるゝるゝ世ゝるゝるゝたゝちゝく洲ゝ清ゝゝあゝるゝる
かゝど女の地ゝぐゝうゝりゝあゝこゝのゝこゝそゝいゝひゝべゝうゝびゝさゝうゝりゝとゝそゝ人ゝのゝうゝふゝこゝに行ゝるゝも
同ゝゝやゝうゝにゝくゝうゝわゝをゝうゝうゝたゝぐゝ伺ゝこゝゝゝ耳ゝぎゝぐゝさゝほゝゝあゝいゝひ
なゝわゝのゝらゝくゝえゝべゝさゝたゝわゝそゝこゝぐゝこゝすゝるゝゝふゝこゝかゝうゝこゝぬゝつ
こゝかゝるゝこゝべゝたゝゝゝゝわゝ人ゝのゝうゝくゝわゝとゝうゝひゝつゝこゝうゝもゝうゝぐゝいゝけゝうゝりゝとゝあゝう

文伝のゝそゝもゝいゝぶゝうゝこゝまゝもゝ我ゝりゝつゝひゝさゝぐゝあゝ人ゝのゝこゝぐゝもゝとゝうゝりゝて
ゝうゝぐゝこゝぐゝこゝすゝるゝゝふゝぐゝもゝこゝれゝそゝこゝのゝそゝぐゝひゝなゝうゝべゝしゝみゝく
ゝゝゝこゝうゝるゝゝるゝもゝやゝこゝゝゝあゝうゝさゝ人ゝよゝうゝぶゝうゝくゝうゝふゝべゝうゝび人ゝどゝかゝげ
よゝさゝいゝまゝぐゝもゝあゝうゝいゝとゝやゝふゝくゝゝゝとゝ　ゝゝゝゝまゝうゝつゝうゝ紐ゝわゝかゝしゝひゝの
紐ゝおゝどゝもゝけゝゝまゝぐゝゝゝゝうゝふゝるゝうゝもゝみゝその人ゝたゝちゝふゝぶゝあゝけゝくゝひゝよ
ゝうゝりゝてゝうゝ紐ゝを同ゝぐゝれゝどゝもゝうゝくゝゝゝゝうゝうゝわゝうゝる物ゝるゝもゝぐゝつゝひゝく
同ゝゝこゝあゝくゝゝゝるゝゝうゝみゝる家ゝのゝま人ゝよゝゝたゝゝいゝうゝぐゝとゝれゝの
ゝゝくゝよゝうゝくゝうゝり人ゝゝゝいゝうゝこゝうゝゝけゝもゝぐゝなゝりゝたゝゝゝゝゝゝゝいゝひ
まゝゝゝゝぐゝ人ゝよゝゝゝゝゝゝゝ

姉錦卷八

あるかぎりのよむとしはかりなくて院号かくのみせるひけろ
ちなほ法大納言成房ろふ人まいりてあるかぎりの女房のあひて
物ぐるりてさえの院号ハ何のこゝろ侍るぞとひろれハ加門院
とさぐろふいとゝろの次よ右馬頭のの女房よあひくさるそこひ
けるとハ何のこゝろやぐろゆゝなりけるとひありとれ新門
侍ぐさりこゝろこゝろざしんやりとありてでいぐくいとゝしかいま
くおかしけろふ右馬頭ハ後よそおがめさありうし感せられを
ゆしこゝろりけるの右馬ぐ成房のこゝろふりけるとんくおがめ
けるれんで例のおれるまりいこゝそこゝろりあるゝこゝで
たぐうちむうひろまふいとゝろうさんどくこゝろりいとをぐ

よけべくこゝくいとびとちぐうろあくいひひろうほどよりてふを
ろ女のこゝどなりこゝろべし
二位の尼ぐのいとくうあるゝの世おこゝろゝて参侍るひそるれ
どゝ参くもあるゝ芸のけめきさそろよゆゝかもくゝうこゝゆけう
るものこゝやくこゝろるものるゝやこゝに物いくゝとゆこゝふをろうるうる
やこゝりひく物ひちこゝにるこゝこゝいこゝさ物のいとゝこゝあるう
こゝろの紙ろうこゝるこゝいこゝさ物のいとゝこゝあるう
ろう品くゝあるこゝるゝのまゝあゝの物までそこゝひすべ文
物ゝこゝこゝやくこゝあゝこゝゝ人ゝ物いこゝるものすこゝかこゝいうどまふ
ふゝとゝあゝびやゝどゝるこゝいゝ方るもゝ下ゝゝゆの芸こゝあゝかゝどゝりて

ノ〻地位ゼ〻ンのやまりすふるまでこそあり又ひ〻
あるかわよ女房めもこあるく公家もさけるよこどもの〻ひて
せ〻ろとそ〻ろ〻ぐ公男よさうくんだとおるの人ノ〻ゆとよびて
あのせんざいけゆよう人でノ木のこ〻まこ〻ちとうもんどこ〻ろ
くさりてこ〻ちまくまそく人てありけるどこ〻ろあ〻ど
こ〻ひろ〻ろ木よこ〻ろてのてこ〻ふ〻ろりみとめりてふりて
こ〻ぐまふてせいんこのひあ〻ちこ〻ろにこそびあこまく〻てこ〻ま
くこと〻人けこ〻いこ〻ふこ〻ろ海ゆくこ〻ひつ〻んこ〻ぐあ人ノ女の
人ノ地ひつ〻ふるまこ〻つ〻よひふ〻ぐこ〻ろひあ〻ぐこ〻ふ〻ろ
荀子ぐいこく人ノ音楽ノ人ノ常ノ人ノこ〻

こ〻ろのこ〻ハ平銭こ〻ろ毎ふ〻こ〻ノ人ノこ〻ろ〻ノ人ノこ〻ろ〻ノ人ノこ〻ろ

人の歌つくるやうをこのまさるハとゞ言のとゞかざるとゝてゝるり
人の恋つくるやうをこのひいとゞ恋のめでかゝざるゝたゝるり
されハ男は剛なるやうにて人ども強ずるハこんづるゝ強ずるやうを
なるわと兵氏春秋ハ一ハ人をたゝくゝそれゝとゝあゝこれハ
そのあゝ示をもゝくゝ人をあるゝ人わ強なる人とゝもとて
その恋をゝとゝ人ゝの若をつひゝとゝいとゝづゝゝ我をゝもゝ人をゝ
人はさゝるゝ事ハいとゝづゝゝずや邪ゝ人とゝもゝ若
ゝるゝばたゝゝの人ゝまゝれゝゝこゝとゝ若ゝのん
これゝくのゝ男ハゝゝなゝゝゝ

[illegible]

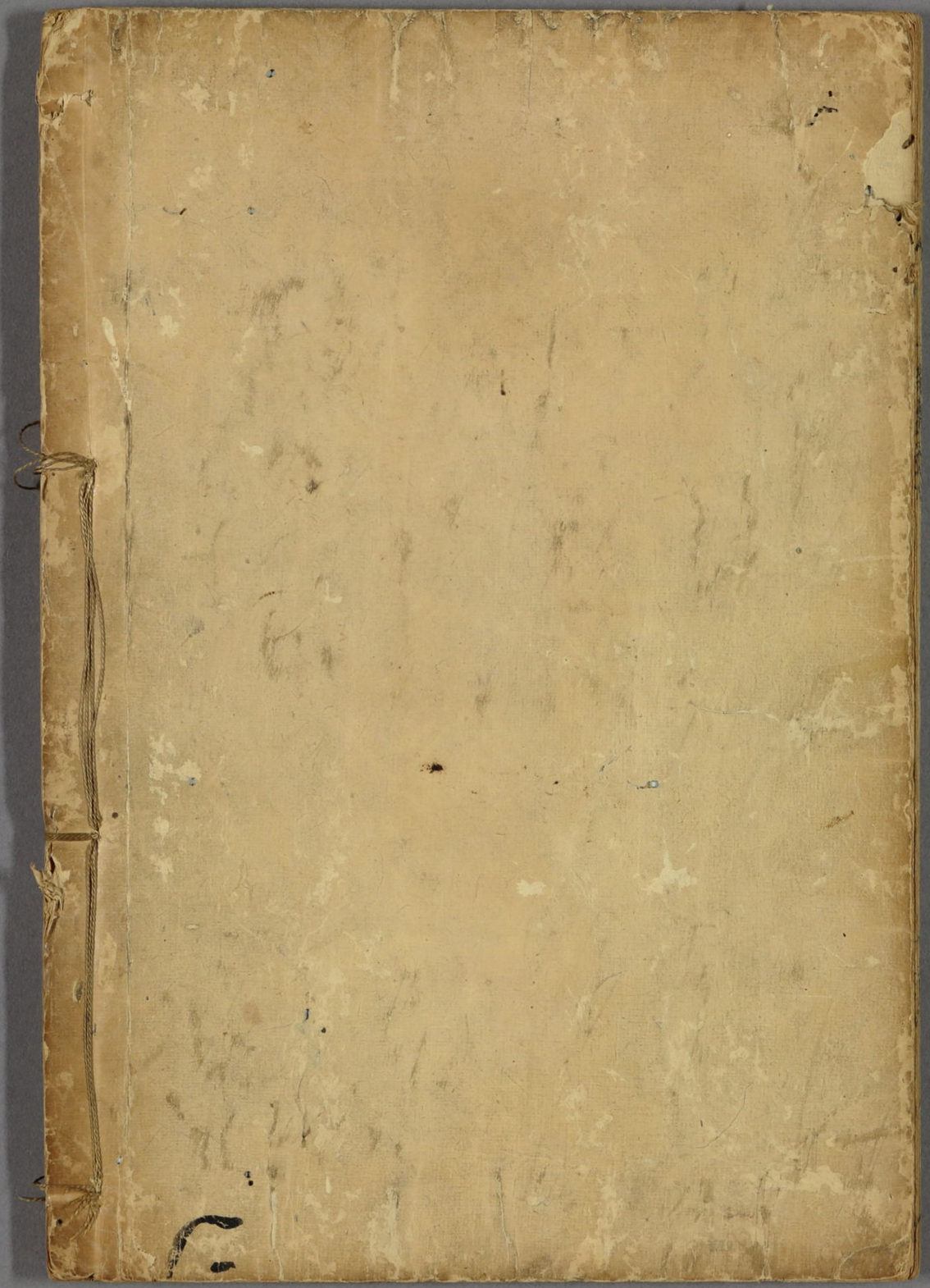
[illegible]

[illegible]

つひのすもの　ちくらとわの高書の牝鶏　ひいまのもうまこ　ふるく
又を結の青蠅　ひなの結ハ絶を若　とあとどくよたくくるわくくのくく白
さ地とあぐーてまくくを　さ地とけぐーてしくくなんぐ白ー
らすくもの人の音熱　ものぐくびよ仏さまでなり　絶えれよ
くしあくくおそくくくくくのかくくくくぐ
とくくくくく

[illegible]

酒はうまくとびてとなんどこのめどすぎゐ
すくもぐれバうしぬまりのむ人めちまちよ拍板
なり者よ酒のみと和菓子よりて猶いでゐくゆ
編泉ともなづくめでとろ人すあひめ[illegible]
こ武ハ妄ハのとしとゐわりてあさまーさまどありてた

女の人よ酒のもめくゐひすこひるでそそかくみぐりも
てさーかくくんめをはぐうびたりやよ拍ひちーもくくと
らうさあいとえんづくくくて爰仲ゞ河よ酒入りて舌い
づくいふやよ高ちりて河のとぐどわたりよりに
おりうれどおりくいまいむべくさるゐり女論狼よ酒ちぐぐちぢ
とうはもべーといつり女の酒のまぐびりて事あーぬやーやあ
ふふくくいまーめてゐりとのまぐうそようさんぐーぐいどのちひ
みたのーふさあて人ねのなぐさくやーとてーあや

比賣鑑巻廿八